



総務部

「しまのゆんたくin慶良間」を開催

環境の保全と観光の両立を目指して

沖縄総合事務局では、新たな離島振興策の一環として、地元行政機関、地域住民等が一堂に会して「ゆんたく」、地域の発意による地域活性化の端緒とすることを目的に「しまのゆんたく」を開催しています。

6月4日(水)、5日(木)、国内で31番目の国立公園に本年3月に指定された慶良間諸島において、「しまのゆんたくin慶良間」を開催しました。

慶良間の振興「一体で」

初日は、渡嘉敷村在住者が座間味村へ、座間味村在住者が渡嘉敷村へ、相互に訪問して村内を巡り、慶良間諸島における環境保全の課題や観光振興による島おこしを議論の中心に、各村ごとに分科会を行いました。

2日目は、「環境の保全と観光の両立」をテーマに、(株)カルティベート開梨香代表取締役社長による講演が行われました。その後、ゆんたく本会では、両分科会の代表者から慶良間諸島が抱える課題や解決方策について発表がありました。

渡嘉敷分科会からは、年間を通して安定した集客のため、特に冬場の観光メニューの開発(平準化に向けた戦

略)、質の高い来島者を呼び込むための

高品質なサービスの提供(質を重視する戦略)、渡嘉敷島を心のふるさととして再訪してもらうための修学旅行の受入やビーチクリーンなど環境保全活動(長期的視点にたった戦略)の「3つの戦略」について提案がありました。

一方、座間味分科会からは、環境保全に向けて、条例による規制、全国の国立公園のようなビジターセンターの設置、自然を守るための注意事項を解説したDVDの作成・配布などの意見がありました。また、観光振興について、日帰りが多いホエールウォッチング客に宿泊してもらうための自然観察ツアーの開発を検討していることや国外旅行者の来島が多くなっていることから「指さしシート」の作成といった

多言語化に向けた取組などが紹介されました。

会合の終わりに、渡嘉敷・座間味両村長より、国立公園の指定やこの「しまのゆんたくin慶良間」をきっかけにして、これまで以上に両村が協力して、環境を守りつつ地域を活性化していき

たい旨、発言がありました。

当局では、引き続き、慶良間諸島における地域活性化の活動を支援するとともに、他の離島等においても、地域の発意による地域活性化を進めるお手伝いをしてまいります。



ゆんたく本会での議論の様子



参加者全員で